

Meiji Seika ファルマ株式会社

2025 年 8 月 20 日

報道関係各位

**「#話そうワクチン」プロジェクト  
～第2弾 アンサー広告の展開と特設サイト開設について～**

Meiji Seika ファルマ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：永里敏秋）は、国民一人一人が感染症やワクチン接種について考え、医師との対話を通じて最適な判断ができる機運を高めることを目的として、8月18日より「#話そうワクチン」プロジェクトを開始しました。

プロジェクトの第2弾として、第1弾で展開した『問い広告』に対する Meiji Seika ファルマとしての『アンサー広告』を展開します。また、特設サイトには、複数の医師からのメッセージも掲載しています。

## ■ アンサー広告（8月20日の朝日新聞、読売新聞朝刊）

健康にアイデアを  
**meiji**

どうして、私はワクチンを打つんだろう？

どうして、私はワクチンを打たないんだろう？

あなたにとって、ワクチンとは？

コロナ禍以降、SNSにはワクチンに関するさまざまな意見があふれています。  
推奨する声もあれば、慎重になったほうがよいという声もある。  
「自分は接種したほうがいいのか？」「接種しないと、どんなリスクがあるのか？」  
そんな疑問に寄り添ってくれるのは、ネット上の誰かではなく、  
あなたのことをよく知るかかりつけ医や専門の医師であると私たちは考えます。  
私たちの調査<sup>※</sup>では、約9割の医師がワクチンのことを  
もっとあなたと話したいと望んでいます。  
Meiji Seika ファルマは、あなたとあなたの大切な人の未来を守るために  
最適な感染症対策を選択できるよう取り組んでいます。

#話そうワクチン



Meiji Seika ファルマ

©2025 Meiji Seika Pharma Co., Ltd. All rights reserved.

## ■ 「#話そうワクチン」特設サイト

[http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/vaccine\\_talk/](http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/vaccine_talk/)

分断でなく協力を！

中野 貴司 先生

川崎医科大学 小児科学 特任教授



ワクチンは感染症を予防する目的で投与される薬剤で、有効性と安全性の高いワクチンが普及すれば、私たちは病気から守られます。一方で、ワクチンの効果や副反応についてはしばしば意見が交錯し、社会を巻き込んだ論争となります。これは、私たちを分断する原因ともなり、心が痛みます。

ワクチンとは、健康という共通の目的を目指して、人類が共有し協力できる手段であってほしいと思います。

ワクチンは、  
シートベルトのように  
日常を守る「備え」です

國島 広之 先生

聖マリアンナ医科大学 感染症学講座  
主任教授



子どもも大人も自分の発症や長く続くつらさのリスクを下げ、明日の予定と暮らしの支えになります。

不安は自然なこと。最新の根拠に基づき、効果・副反応・接種のタイミングをわかりやすくお伝えします。健康づくりはまず予防から。運動、食事、睡眠、そして普段の診療での声掛けと並ぶ、続ける取り組みの一つです。

「受けておいてよかった」と感じられる選択につながるよう、納得の判断を支えます。

ワクチンは未来を守る  
科学の盾

三鴨 廣繁 先生

愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座 教授



ワクチンは、私たちの体に「病気の予行演習」をさせることで、免疫力を高め、重症化や感染拡大を防ぐ科学的な盾です。

「天然痘」を根絶し、多くの命を救ってきた実績があります。

自分を守ることは、大切な家族だけではなく、社会を守ることにもつながります。

私たちが  
感染症から守ってくれる、  
大切な医薬品です

岩田 敏 先生

東京医科大学微生物学分野 客員教授



「ワクチンで防ぐことができる疾患（vaccine preventable diseases；VPD）はワクチンで予防する」ことは感染制御の原則であり、このことは国が制定する予防接種基本計画の中にも明記されています。現在国内でワクチン接種可能なVPDは20種類以上あり、多くのワクチンが定期接種の対象となっていて公費助成が受けられます。感染症に罹患した場合の疾病負担の大きさを自分事としてとらえ、ワクチンの有効性と安全性について理解した上で、積極的に予防接種を受けるようにしましょう。

## ■ 「#話そうワクチン」プロジェクト開始の背景

コロナ禍を経て5年、社会・経済活動は日常を取り戻しました。しかし、現在も新型コロナウイルス感染症は断続的に流行しており、高齢者や基礎疾患のある方は重症化リスクが高いことから引き続き注意が必要です。加えて、昨冬にはインフルエンザが猛威を振るい、今年に入ってから百日咳の流行やはしかが確認されるなど、感染症の脅威はとどまることを知りません。

一方、昨今ではSNSを中心に感染症やワクチンに関する偽誤情報も数多く拡散され、一般生活者が正しい情報にアクセスすることが難しい環境になっています。私たちが実施した調査結果では、一般生活者は「ワクチン接種についてアドバイスが欲しい」と考え、医師も「積極的にアドバイスしたい」という意向があるにも関わらず、対話には至っていないコミュニケーションギャップの存在も明らかになりました\*。

私たちは、感染対策やワクチン接種について一人一人が冷静に考え、不安や疑問に感じることは医師に相談し、納得した上で判断すべきであると考えています。その思いから「#話そうワクチン」プロジェクトを開始することといたしました。

約 80 年に渡り、感染症の脅威と戦ってきた Meiji Seika ファルマは、「未来まで守れ。」というキーメッセージのもと、感染症領域のリーディングカンパニーとして、医薬品やワクチンの提供だけでなく、感染症関連情報の発信などによるコミュニケーション促進などを通じて、国民の皆様の健康に貢献してまいります。

\*プレスリリース「一般生活者の 6 割以上、医師の 9 割がワクチン接種に関する対話を望むものの実際の対話は 3 割にとどまる現状が明らかに～ワクチン接種に関して迷う時は医師に相談を～」

\*第 1 弾の内容はこちらをご覧ください

[「#話そうワクチン」プロジェクト～第 1 弾 問い広告「あなたにとって、ワクチンとは？」を展開～](#)

以上